

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 98号

2014/06/23 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、 市況の動き：両市場とも週を通して小幅に推移するも、依然高値を維持

① 最高：9月 LDN 市場£1,948 /9月 NY 市場\$3,118 (6/18) 先週比 **LDN -£10/NY +\$15**
② 最低：9月 LDN 市場£1,933 /9月 NY 市場\$3,106 (6/19,16) 先週比 **LDN+£3/NY+\$44**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£15 (傾向↑) / NY 市場\$12 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN市場 269,119 枚(6/13 終了時)⇒271,229 枚 (6/19 終了時) **+2110 枚**
NY市場 210,587 枚(6/13 終了時) ⇒215,993 枚 (6/19 終了時) **+5406 枚**

【6月16日(月)】両市場＝小動き

薄商いの中、小動き。3営業日にわたって荒い値動きが続いた後、落ち着きを取り戻した。ニューヨーク市場の9月きりは3ドル(0.1%)高の**3106ドル**、ロンドン市場の9月きりは3ポンド(0.2%)安の1936ポンドで引けた。

【6月17日(火)】両市場とも小幅高

ニューヨーク市場の9月きりは高値から値を消したものの、なお2ドル(0.06%)高の3108ドルで引けた。同限月は先週、約3年ぶりの高値となる3125ドルを付けた。

ロンドン市場の9月きりは5ポンド(0.3%)高の1941ポンドで終了。ココアトレーダーやチョコレート製造業者によると、2013～14年度の世界のカカオ豆市場は2年連続で供給不足になる見込みだが、ココア相場高が供給拡大を促す要因となる可能性がある。

【6月18日(水)】両市場とも続伸＝ココアバター需要堅調

ニューヨーク、ロンドン両市場とも続伸。ココアバターの堅調な需要が相場を支えた。

ニューヨーク市場の9月きりは10ドル(0.3%)高の**3118ドル**で終了。同限月は先週、2番ぎりとしては2011年9月以来の高値となる3125ドルを付けている。ロンドン市場の9月きりは7ポンド(0.4%)高の**1948ポンド**で引けた。

【6月19日（木）】両市場とも小反落

ニューヨーク市場の9月きりは薄商いの中で小反落し、2ドル（0.06%）安の3116ドルで終了した。一時、3128ドルの高値を付ける場面も見られた。

ロンドン市場の9月きりも小反落。15ポンド（0.8%）安の1933ポンドで引けた。両市場ともに投機筋が歴史的に見ても高水準な量のロングポジションを持ち続けている。2014～15年にかけて、世界的にココアが不足するとの見方が出ている中、相場はさらに上昇するとみられている。

【6月20日（金）】ニューヨーク続伸＝ロンドン小反落

ニューヨーク市場の9月きりは続落し、8ドル（0.3%）安の3108ドルで終了した。前日に2011年8月以来の高値となる3128ドルまで上昇したことを受け、利益を確定させる動きが広がった。

ロンドン市場の9月きりは小幅に反発し、2ポンド（0.1%）高の1935ポンドで取引を終えた。2014～15年度も3年連続で世界的な供給不足に陥り、ココア相場が上昇するとの見方から、投機筋はロンドン、ニューヨーク両市場で買い持ち高を膨らませている。

2、コートジ：業者によるカカオ豆購入ペース鈍化＝降雨の影響で品質低下(6/20)

カカオ豆輸出業者、仲介業者、農家によると大雨と日照不足により品質の悪い大量のカカオ豆がコートジの港に運ばれているという。これにより一部の業者は農家からのカカオ豆の購入を停止している。

チョコレートの主原料であるカカオ豆の農家は、カカオ豆の生産と豆の乾燥の為に、十分な雨が各地に均一に降ることや一定の日照時間を必要としている。しかしコートジではこの1週間、大雨に見舞われた。

状況は悪化しておりコートジの監督機関によって品質の良い豆のみを輸出している。一部の購入業者は天候が回復するまで購入を一時中断することを決めた。

ある関係者によると雨がやむまではこうした状況がさらに悪化するという。彼は「我々は今に至るまでカカオ豆の購入のスピードを緩めている。そして状況が変わらないなら、先の2、3週間は買い付けを完全に停止させるだろう。雨のせいでオープンによって豆を乾燥させなくてはならないので、そこにお金を費やさなくてはならない。何の利益にもならない。」と述べた。

コートジは今シーズン、異常なほど雨が降っており4月～9月までのミッドクロップが危機にさらされている。

3、カメルーン：国内の圧砕業者によるカカオ豆の購入増加＝5月(6/19)

カメルーンの国立ココア・コーヒー委員会によると、同国の圧砕業者は3月の終わりまでに国内向けに3万820トンのカカオ豆を購入した。ちなみに昨年同時期は2万9205トンでありわずかな上昇となった。

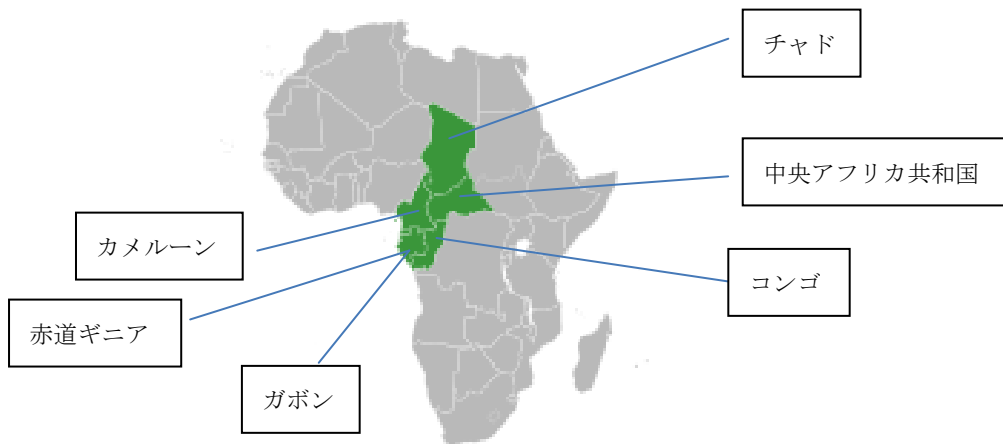
Sic-Cacaos（スイスのバリーカレボーの子会社）の買い付け量は8月のシーズン開始以来、3万25トンに達し昨年の2万7203トンより上昇した。Sic-Cacaosは3～4月にはカカオ豆の買い付けをしていなかったが5月は521トンとなり昨年同時期の467トンから増加した。

カメルーン第2の圧砕業者であるCHOCOCAMは8月以来合計で795トンのカカオ豆を買い付けた。

Sic-Cacaosはカカオ豆をココアパウダー、カカオケーキ、カカオマスへと加工し、同社で製造されたこれら

の製品は中部アフリカ経済通貨共同体 (CEMAC) に加盟する 6 か国で販売されている。一方の CHOCOCAM はカメルーン国内での販売に留まる。

(中部アフリカ経済通貨共同体 / 6ヶ国)



4、インドネシア：カカオ豆の輸出税引き上げを検討(6/19)

インドネシアは国内での圧砕力の上昇を見込んで、カカオ豆の供給量を確保する為カカオ豆の輸出税を引き上げることを検討している。

インドネシア国内のカカオ豆生産量は過去 10 年で最も少なくなるだろう。しかし一方で圧砕力は 85%上昇する見込みであり、政府は供給不足に何とか対応しようとしている。

カカオ豆生産量世界第 3 位のインドネシアが輸出を抑制すると世界のカカオ豆の価格は上昇するだろう。現時点でもすでに 2 期連続の供給不足の影響で 15%ほど上昇している。

インドネシアの農業省長官の Suswono 氏は「国内の需要を満たすため、我々はカカオ豆の輸入税を引き下げる代わりに、輸出税の引き上げを選択した。これは経済省も同意していることだ。」と述べた。

現状の輸出税は 10%であるが、輸出税は前月のカカオ豆価格をベンチマークにして毎月政府が定める。

貿易省長官の Lutfi 氏は「農業省、経済省と我々貿易省での話し合いはまだ終わっていないが、間もなく決断が下されるだろう。」と述べた。彼によると議論は輸入税の引き下げ化輸出税の引き上げかで揺れているという。Lutfi 氏は「問題は、拡大している国内の圧砕業者へいかにカカオ豆を供給するかにある。圧砕力は 2016 年までに 100 万トンへ達する見込みだ。」と述べた。なお経済省からのコメントはまだない。

インドネシアのカカオ豆生産量は 2013/14 期には 2%下落し 41 万トンになる見通しである。この数字は 2002/03 期以来の最低水準である。一方でインドネシアの圧砕力はカーギルやオーラム、バリーカレポーなどの多国籍企業により新しい設備が導入されたことで拡大している。

インドネシアのカカオ産業協会によると東南アジアの圧砕力は 2014 年に 60 万トンとなる見込みで昨年の 32 万 4000 トンより増加する。インドネシアは昨年は 18 万 8000 トンのカカオ豆を輸出した。

5、アジア：バターレシオは依然高止まり、パウダー価格も上昇(6/18)

アジアのバターレシオは2.5とここ6カ月は高止まりしており、供給不足を背景に一部の圧砕業者は生産を抑えている。バリーカレボーを含むチョコレート製造メーカーは競ってバターを買いに動いており、このことがまた価格を押し上げることとなった。アジア、欧州、アメリカにおいてここ数カ月で最も高い価格水準になっている。

インドネシアのディーラーは「これほどまでにレシオが高いと、ほとんどビジネスが成り立たない。私は、カカオ業界が予想よりもレシオが高くなっていることの原因を探ろうとしているように感じる。バターは買わないわけにはいかないが、だれも高い価格で買いたがらない。」と述べた。

ロンドン先物価格は今年すでに12%上昇し、2013/14期も2期連続しての供給不足が見込まれている。

圧砕業者は在庫を明かしたがないし、またチョコレート製造メーカーはイースター需要後の今、レシオが下がるのを待っている。アジアの一部の圧砕業者はパウダーの在庫を減らすために、工場の稼働を抑えている。またインドネシアではバターの高値の原因はカカオ豆不足によるものとされている。

パウダー価格はめずらしく高く2100USD/トンとなり、2週間前の1400~1900USDと比べて上昇している。

6、ナイジェリア：カカオ豆が7月の大雨で病害懸念も＝農家は薬剤散布(6/14)

カカオ豆農家とアナリストが13日明らかにしたところによると、ナイジェリアのカカオ豆主産地の農家は、7月が大雨になってブラックポッド病が発生しやすくなるとの懸念から、農薬の散布を進めている。

カカオ豆の主産地、オンド州とクロスリバー州では、6月は潤沢な雨と晴天に恵まれ、作物生育にプラスとなったが、日照不足から病害が拡大し、豆の品質が低下する恐れが出ている。7月は例年雨が多い。

農家の一人がロイター通信に語ったところによると、大半の農家では、6月に終了するライトクロップ期に生産したカカオ豆の売却で得た収入で、7月のメインクロップ期入り前に、農薬などを購入している。この農家は「大雨になるかもしれないので、病害防止で薬剤を散布している」と説明した。ナイジェリアの商品アナリストは「今シーズンは農地の状態が極めて良好だ」としつつ、農家は生産拡大のため化学薬品などを購入していると述べた。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp